

リコチャレ

RIKO CHALLENGE

理工チャレンジ プログラム(モデル)



～女子中高生・女子大学生の理工系分野への選択～

女子中高生・女子学生の皆さんのが 将来の自分をしっかりイメージして
理工系分野に進路選択（チャレンジ）することを応援する取組を
内閣府男女共同参画局が中心となって進めています

令和 7 年3月
内閣府 男女共同参画局

【 目 次 】

1 概要	1
(1) 本事業の目的	1
(2) 理工チャレンジ プログラム実施の狙い・効果	2
①社会的意義（第5次男女共同参画基本計画より抜粋）	2
②学校経営上のメリット	3
(3) 有識者ヒアリング	3
2 モデルケース校 紹介	4
(1) 国立大学のモデルケース	5
①お茶の水女子大学（理系女性育成啓発研究所）	5
②名古屋工業大学（ダイバーシティ推進センター）	6
(2) 公立大学のモデルケース	7
①兵庫県立大学（ダイバーシティ推進室、工学部）	7
②北九州市立大学（国際環境工学部）	8
(3) 私立大学のモデルケース	9
①八戸工業大学（STEAM女子推進・支援室）	9
②帝京大学（理工学部）	10
(4) 高等専門学校のモデルケース	11
①高知工業高等専門学校（Techno-Girls of Kochikosen）	11
3 理工チャレンジ プログラムの企画・実施	12
(1) 理工チャレンジ プログラムの企画	12
①理工チャレンジ プログラムにおける 実施目的（Why/なぜ）	13
②理工チャレンジ プログラムにおける 実施内容（What/なにを How/どのように）	14
③理工チャレンジ プログラムにおける 実施主体・対象（Who/だれが Whom/だれに）	17
④理工チャレンジ プログラムにおける 実施日時・場所（When/いつ Where/どこで）	20
⑤理工チャレンジ プログラムにおける 予算計画（How much/いくらで）	21
(2) 周知・広報	22
①周知・広報方策	22
②ステークホルダー等と連携した周知	25
(3) イベント実施に向けた準備・当日運営	26
①準備のための想定スケジュール作成	26
②運営計画の策定	28
(4) Q&A	30
【理工チャレンジ プログラム モデルケース校 担当者対談】	33
(1) 対談 実施概要	33
(2) 理工チャレンジ プログラム モデルケース校 担当者対談	33
別添資料 1：企画書 実例	36
別添資料 2：運営計画書 実例	38

1 概要

(1)本事業の目的

我が国の理工系分野における女性研究者・技術者の割合は、増加傾向にあるものの依然として低い水準となっており、今後、本格的な人口減少社会を迎える中でイノベーションの創出によって社会の課題を解決するためにも、女性研究者等の活躍を推進することは急務です。しかしながら、理工系分野において次代を担う女子学生比率は低い状況であり、女子生徒等の理工系分野への進路選択が促進されることが必要です。

政府では、女子中高生等が、理工系分野に興味・関心を持ち、将来の自分をイメージして進路選択（チャレンジ）することを応援するため、内閣府男女共同参画局が中心となって「理工チャレンジ」を行っています。今後、女子生徒等の理工系分野への進路選択を促進させていくためには、これまでの取組に加え、各地域における「理工チャレンジプログラム」の実施数を増加させていくことが重要であると考えています。

※ここでは「理工チャレンジプログラム」とは、大学・高専等が実施する女子生徒等の理工系分野への進路選択を促進する取組のうち、特にイベント形式で実施されるプログラムを指します。具体例については、後述の『2 モデルケース校紹介』を参照してください。

※なお、後述の各モデルケース校が実施する取組は、必ずしも『理工チャレンジプログラム』として実施されているものではありませんが、本資料作成の便宜上、これら取組の一般名称を『リコチャレ関連プログラム』としています。

そこで、「令和6年度「理工チャレンジプログラム（モデル）」の作成に係る調査研究」として、各地域の大学・高等専門学校向けに、理工チャレンジプログラムの具体的な実施内容や実施手順の事例を示した「理工チャレンジプログラム（モデル）（本資料）」を作成しました。各大学・高専におかれましては、本資料を参考に、ぜひ理工チャレンジプログラムの実施に取り組んでいただけようお願ひいたします。

理工チャレンジ（リコチャレ！）～女子生徒等の理工系への進路選択を促進～ 取組概要



リコチャレは、女子中高生等が、理工系分野に興味・関心を持ち、将来の自分をしっかりイメージして進路選択することを応援するため、平成17年（2005年）より内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取組です。

取組

夏のリコチャレ

- ・夏休み期間中、大学、企業、学術団体等がイベントを実施
- ・内閣府・文科省・経団連がサポート
- ・令和6年度実績 119団体228イベント実施 約6,900名が参加

募集

リコチャレ応援団体

- ・理工チャレンジの趣旨に賛同する大学、企業、学術団体等 936団体
(令和7年2月25日現在)

ウェブサイト 「理工チャレンジ」

- ・イベント情報
- ・ロールモデル情報
- ・団体からの応援メッセージ

シンポジウム

- ・有識者や実際に活躍する女性研究者・技術者（ロールモデル）による情報発信
- ・IT業界で活躍する女性（ロールモデル）提示等

理工系女子応援 ネットワーク会議

- ・理工系女子応援ネットワークに登録した団体が出席
- ・相互連携に向けた情報共有や取組方針を検討

理工系女子 応援ネットワーク

- ・リコチャレ応援団体のうち、具体的な支援を行っている団体 232団体
(令和7年2月25日現在)

調査研究

- ・女子生徒等の理工系分野への進路選択支援を目的とした各種支援策の調査研究、事例集作成
- ・女子生徒等の理工系分野への進路選択を阻害するアンコンシャス・バイアスの払拭を目的とする研修用動画制作

STEM Girls Ambassadors による理工系女性人材育成

- ・STEM Girls Ambassadorsを派遣し、全国各地で講演等を開催

若手理工系人材 (ロールモデル) による出前授業

- ・人口5万人未満の市区町村の自治体や学校へ、企業・大学等の理工系人材を派遣



(2) 理工チャレンジ プログラム実施の狙い・効果

理工チャレンジプログラムを推進していくことは、以下のような社会的意義があります。また、学校経営上のメリットにも繋がります。

① 社会的意義（[第5次男女共同参画基本計画](#)より抜粋）

理工チャレンジプログラムは、下記の観点から、大きな社会的意義を持つ取組です。

a) 持続可能なイノベーション創出環境の整備

科学技術・学術は、我が国及び人類社会の将来にわたる持続可能な発展のための基盤です。近年活発になっていいるIoTやビッグデータ、AI等の最先端の技術開発及びその技術を活用した製品やサービス提供等においても、男女が共に参画し、その恩恵を享受できることが重要です。男性の視点で行われてきた研究や開発プロセスを経た研究成果は、女性には必ずしも当てはまらず、社会に悪影響を及ぼす場合もあり、体格や身体の構造と機能の違い、加齢に伴う変化など、性差等を考慮した研究・技術開発が求められ、これはイノベーションの創出にもつながります。そのためには、多様な視点や発想を取り入れていくことが必要であり、女性研究者・技術者がその能力を最大限に発揮できる環境を整備することが求められます。

b) 次世代を担う女性の科学技術人材の育成

研究職・技術職は、専門性を身に付けキャリアアップにつながる職種であり、女性の更なる参画拡大が望まれます。そのためには、計画的・長期的に研究職・技術職に進む女性を増やすべく、女子中高生、保護者、教員等の科学技術系の進路への興味関心や理解を全国的に向上させるための取組により女性の理工系進路選択を促進し、次代を担う女性の科学技術人材を育成することが重要です。



有識者からのコメント

理工系分野に女性が増えることの意義

- 理工系分野に女性が増えることの意義は、科学技術を進展させていくプロセスの中に、男女が共に参画していくことで、技術開発等を行う者が多様化することにあると思う。性別も含め、様々な観点から技術者等が多様化していくことが重要であるという意味である。
- 科学技術は、多様な人々がその恩恵を受けるもの。そのため、科学技術の進展を支える側にも多様性が求められる。例えば、技術開発等に女性が参加することで、女性にとって使いやすい製品等ができるだろう。

②学校経営上のメリット

理工チャレンジプログラムを実施することは、学校経営上のメリットにも繋がります。

a) 学校 PR

理工チャレンジプログラムは、主に女子中高生等を対象とした取組です。プログラムを実施することを通じて、女子中高生等、またその保護者や中学・高校の教員等へ、貴学の学校方針や教育内容、女子学生を歓迎していることを周知することができます。

b) 教育効果

理工チャレンジプログラムを推進していくに当たり、実施内容の検討、準備、広報、当日の運営、場合によっては、外部機関（自治体、企業等）との連携・調整など様々なことを行う必要があります。これらの実施プロセスを「プロジェクト・ベースド・ラーニング（課題に対して、少人数のグループでの自律的な問題解決・意思決定・情報探索などを通じて解決を目指す学習方法）」として活用することにより、学校内における教育効果も期待できます。

c) 地域貢献

理工チャレンジプログラムは、主に地元の女子中高生等を対象に実施するため、地域貢献の側面も生まれます。特に、地域との繋がりが強い公立大学等にとっては、大学全体の実施方針と調和しやすいと考えられます。

(3)有識者ヒアリング

本資料を作成するにあたり、下記の有識者から、それぞれ「①理工系分野に女子を増やすための効果的なアプローチ」、「②大学・高専でのイベント実施」、「③公的機関における広報・周知」の観点からご意見を伺い、全体的な構成や各項目の記載内容の参考にさせていただきました。

【本資料の作成にあたりご意見を伺った有識者】

視点・有識者	概要
①理工系分野に女子を増やすための効果的なアプローチ 東京大学 生産技術研究所 准教授 川越至桜 氏	<ul style="list-style-type: none"> ○日本学術振興会特別研究員、自然科学研究機構国立天文台、東京大学生産技術研究所特任研究員などを経て、2018年9月より現職。博士(理学)。日本科学教育学会理事も務める。 ○宇宙物理学を背景としながら STEAM 教育や科学技術コミュニケーションの実践研究を推進。2019年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞。
②大学・高専でのイベント実施 目白大学 メディア学部 メディア学科 教授 岡星竜美 氏	<ul style="list-style-type: none"> ○株式会社電通テックのイベントプロデューサーとして、世界陸上、横浜博覧会、東京都などのイベントに参加。独立し、株式会社シリウス代表として、①パブリック（官公庁・自治体イベント）②コーポレート（大手企業イベント）③スポーツ・エンタテイメントイベントの戦略プランニング＆プロデュースに携わる。 ○2002FIFA ワールドカップTM パブリックビューイング（国立競技場）は、カンヌ国際広告祭メディア部門グランプリ＜金賞＞受賞。
③公的機関における広報・周知 習志野市役所 政策経営部 まちづくり広報監 月村尚也 氏	<ul style="list-style-type: none"> ○大学卒業後、レコード会社に勤務。映像商品のプロデュースを担当。『サッカー日本代表オフィシャルビデオ』、『ミスター・マリノス木村和司』、ドラマ『ロングバケーション』、『警部補古畑任三郎』など。 ○その後、出版社、映画ファンド会社、番組制作会社を経て、2016年習志野市役所に入職（任期付き職員）。シティセールスを担当するまちづくり広報監。

2 モデルケース校 紹介

理工チャレンジプログラムにおいて、先進的な取り組みをされている大学・高専の担当者にお話を伺いました。下記のとおり、「モデルケース校」として紹介させていただきます。

【本資料の作成にあたり取組内容・工夫などを伺った大学・高専（モデルケース校）】

種別	地域	学校名（主な推進主体）	リコチャレ関連プログラムの概要
国立大学	関東エリア	お茶の水女子大学 (理系女性育成啓発研究所)	○女子中高生と保護者、教員に対し、理系への興味・関心を喚起するとともに、グローバルな理系女性人材の重要性を多方面から理解していただく「理系フロントランナー・シーズ発掘・育成・強化プログラム」を推進している。
	中部エリア	名古屋工業大学 (ダイバーシティ推進センター)	○女子中高生の進路選択支援を目的とする取組「工学の扉を開こう」を推進。プログラミング体験講座「モノづくりチャレンジ」などのイベントを実施しているほか、ウェブサイトにて多数のロールモデルを紹介している。
公立大学	近畿エリア	兵庫県立大学 (ダイバーシティ推進室、工学部)	○近隣の自治体が主催するリコチャレプログラムに協力する形で実験教室を開催。大学の工学部教員が主体となり、理科実験教室の企画・準備・当日運営を行った。
	九州・沖縄エリア	北九州市立大学 (国際環境工学部)	○中学生・高校生が理系の進路を選択し、社会で活躍することを応援する「サイエンスラボ・from 北九州」を推進。自治体との連携を核に、「中学校・PTAへの出張講義」、「体験ラボ」、「講演会(市民講座)」などを実施している。
私立大学	北海道・東北エリア	八戸工業大学 (STEAM 女子推進・支援室)	○青森県八戸市を拠点として、理系女子を増やすため「めざそう、はたらく理系女子」を推進している。女子小・中・高校生や保護者・学校教員向けの講演会や実験教室などを行っている。
	関東エリア	帝京大学 (理工学部)	○中高生を対象として幅広く理系の仕事を知つてもらうため「はばたけ！理系 Youth」を推進している。サイエンスキャンプや講演会などを実施している。
高専	中国・四国エリア	高知工業高等専門学校 (Techno-Girls of Kochikosen)	○在学している女子学生をメンバーとする「Techno-Girls of Kochi kosen (TGK)」が主体となり、理系女子を目指す小中学生を応援する取組を実施している。主に科学実験教室を開催。TGK が実験教室の準備や当日の運営を行うことで在学生的の教育効果も創出している。

(1) 国立大学のモデルケース校

①お茶の水女子大学（理系女性育成啓発研究所）

活動經緯・概要

○お茶の水女子大学では、国立女子大学のミッションとして、理工系女性の活躍促進のため、女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成に資することを目的として活動を行っている。

○同大学では、2015 年頃から取組を開始している。その後、更なる取組の活性化を図り、周知・広報を行っていくため、2021 年に「女子中高生の理系進路選択支援プログラム（国立研究開発法人科学技術振興機構、以下「JST」）」に応募し、採択された。2022 年には、現在の活動主体である「理系女性育成啓発研究所」が設立された。

○同研究所は、理工系女性人材の層を厚くするため、初等・中等教育期間の女子生徒に理工系分野への興味関心を抱く機会を提供すると共に、女子生徒の進路選択に大きな影響を与える保護者や教員に対して、理工系分野への進路選択に関する情報提供等を行っている。

リコチャレ関連プログラムの概要

○同大学のリコチャレ関連プログラムは、「理系フロントランナー・シーズ発掘・育成・強化プログラム」として、参加者の理系への関心の度合いに応じ、「シーズ発掘」、「育成」、「強化」に大別して複数のイベントを開催している。

○理工系に興味を持つ、理工系の進路を選択する、そして、社会で活躍するという意識を養うところまで、包括的な取組を推進している。

○現在は、特に中学生向けの「シーズ発掘プログラム」に注力している。基本的には対面形式で実施しているため参加人数に限りがあるものの、高校生も対象とする「育成プログラム」や「強化プログラム」は、オンライン形式でも開催しているため参加者数が多い。代表的なイベントは「リケジョ-未来シンポジウム」である。



担当者からのメッセージ

- 保護者や教員が理工系分野に馴染みが薄ければ、女子生徒に理工系の進路を勧めづらいだろう。そういった意味で、理工系女性の裾野拡大のためには、女子生徒のみならず、中学・高校の教員や保護者に対する周知・啓発も重要であると考える。女子生徒が理工系の進路を選択したい場合に、それを後押しできるような支援体制、環境づくりが必要である。
 - 理工系に進学しようと思う女子生徒が少ないと理工系女性人材は増えようがない。国立大学として、理工系女性の裾野を拡大させていくことが使命と考え、今後もリコチャレ関連プログラムに積極的に取り組んでいきたい。



お茶の水女子大学
理系女性育成啓発研究所
所長 加藤さん

②名古屋工業大学（ダイバーシティ推進センター）

活動経緯・概要

○名古屋工業大学では、全国に先駆けて、1994 年から機械工学科の女子特別推薦枠を設けていた。現在は、他学科にも女子特別推薦枠を設けている。その背景には、工学分野の女性研究者の少なさ、また地元産業界からの要請などがある。本学は地元産業界、特にものづくり企業との繋がり強く、女性技術者育成の要請を受けるなど、理系女子育成の必要性を感じていた。

○女子特別推薦枠は設けたが、さらなる取組の必要性を感じていた。2014 年に「女性研究者研究活動支援事業（一般型）（JST）」、2017 年に、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 女性研究者研究活動支援事業（JST）」に応募し、採択された。これらの事業がきっかけとなって理系女子育成の取組を拡大し、現在に至っている。

リコチャレ関連プログラムの概要

○現在、同大学では、ダイバーシティ推進センターの取組として、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 女性研究者研究活動支援事業（JST）」で実施した内容を引き継いで、女性研究者への支援やライフィベント支援、次世代育成、OG 支援などを実施している。こうした取組の一環として、女子中高生の進路選択支援（工学の扉を開こう）を推進。イベント実施や動画制作・公開等を行っている。

○代表的なリコチャレ関連プログラムは女子生徒（中・高校生）を対象とした「モノづくりチャレンジ 3D プリンターでオリジナルグッズを作ろう！」である。このプログラムは、事前に参加者から作りたいグッズのデッサンを提出してもらい、イベント当日にデッサンしたグッズを 3D CAD で設計してもらう。後日プリントされた現物を参加者にお渡しするというプログラムである。



担当者からのメッセージ

–「モノづくりチャレンジ」では、ロールモデルと触れ合うことで、参加者に工学に興味を持っていただくことを重視している。そのため、このプログラムには、「①参加者である女子中高生」、「②参加者サポートを行う本学の女子学生」、「③（女子学生に 3D CAD を指導する）理工系分野で活躍する OG の女性講師」が関わる。これにより、参加者それぞれに対して、ロールモデルを提供することができる。“工学”というステレオタイプのイメージがあると思うが、イベントに参加し複数のロールモデルと触れ合うことで、色々な人がいるということを感じてほしい。

–参加者アンケートからは工学に興味を持つもらえる方が一定数存在しており手応えを感じているが、改善の余地もあると考えている。これからも、工学やものづくりに興味を持つもらえるよう、プログラム内容を工夫しながら進めていきたい。



名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター
准教授 加野さん

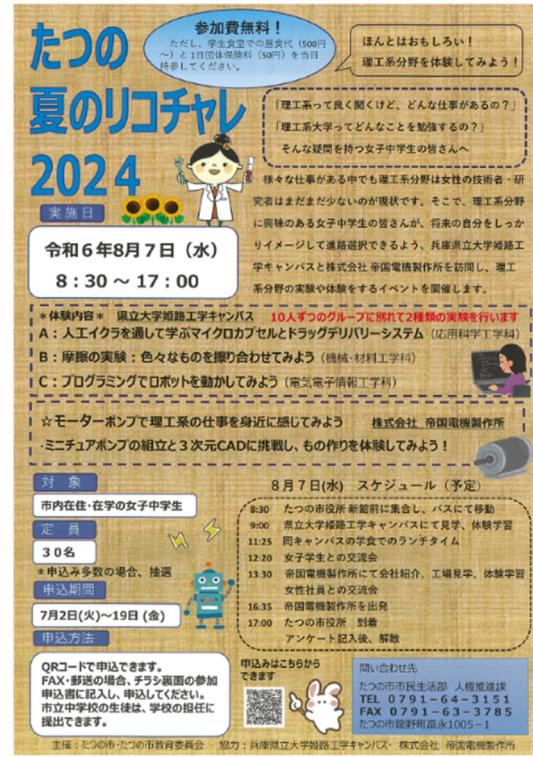
(2)公立大学のモデルケース

①兵庫県立大学（ダイバーシティ推進室、工学部）

活動経緯・概要

○兵庫県立大学では、特に工学部での女子学生割合が低いことに課題意識があり、十数年前から工学部の入試に女子枠を設けている。また、同時期に工学部の魅力を伝えるため、オープンキャンパスを活用して実施するリコチャレ関連プログラム“サマーカフェ”を始めた。このプログラムは、在学生、院生による受験体験記やキャンパスライフ紹介、企業で働く卒業生の講演、女子高生と先輩女子大生とのフリートークや保護者からの質疑への対応などを行うものである。

○こうしたプログラムを行う中で、高校生だけではなく、下の年代である中学生等に対してもアプローチしていく必要性を感じ、その実施方法を検討していたところ、2023年に姫路市が主催するリコチャレ関連プログラムへの協力要請をいただいた。このプログラムは、女子中学生を対象としており、中学生等へアプローチできるものであったため協力を行った。このイベントが好評であったことを受け、翌年には、たつの市からリコチャレ関連プログラムへの協力要請を受け、協力する運びとなった。



理工チャレンジ関連プログラムの概要

○たつの市が主催する「たつの夏のリコチャレ 2024」は、理工系分野に興味を持つ、たつの市内在住・在学の女子中学生が、市内の大学や企業へ訪問し、見学や体験学習等を行うものである。

○本大学では、たつの市からの要請を受けて、協力という立場で体験学習（理科実験）を担当した。当日、バスで到着した女子中学生に3つのグループに分かれさせていただき、3種類の実験のうち、希望する2種類の実験を体験していただいた。また本学の女子学生との交流も行った。



担当者からのメッセージ

– イベント当日は、基本的には自治体側のスタッフが参加者の引率を行い、理科実験部分を本学が担当した。日頃の公開講座や授業の経験を活かして円滑に実施することができた。

– 自治体の理工チャレンジプログラムに協力する場合は、実験教室の実施に注力すればよいが、もし本学が主催する場合、イベント全体の運営や参加者管理など対応できるか不安もある。特に参加者である女子中学生の体調を含めたケアについては対応が難しいと感じた。今回のように自治体と連携して実施する形を模索することで、本学と同じように不安を感じている場合でも対応できる可能性が広がると考える。



兵庫県立大学 工学部
准教授 三浦さん

②北九州市立大学（国際環境工学部）

活動経緯・概要

- 北九州市立大学では、令和6年度に再採択された「女子中高生の理系進路選択支援プログラム（JST）」で実施してきた「北九州から発信する、中高生とその保護者に向けた理系進路応援プロジェクト サイエンスラボ・from 北九州」をベースとしてリコチャレ関連プログラムを実施している。
- 従来から取り組んできた「中学校・PTAへの出張講義」、「体験ラボ」、「講演会(市民講座)」、「企業コラボ企画」の他、令和7年度からは、新規企画として、「PTAへの展開」や「インタビューシップの実施」、「学生活動の組織化」、「他大学との合同企画実施」も行うなど、活動の範囲を広げている。



リコチャレ関連プログラムの概要

- 地域の中学校・高校の授業（総合的な学習（探究）の時間）の一環として出張講義を行っている。この出張講義は、理系分野・理系進路への興味関心を高めることを目的として実施している。いくつかの講義分野（化学、機械、情報など）を予め設定して提供しており、それぞれ担当する教員が講義を行う。
- 参加校の確保に苦労したが、継続的な取組により、本学の出張講義が地域に根付き、また、講義内容のメニューが充実したことによって、参加校確保が出来ている。



担当者からのメッセージ

- 参加校の確保にあたっては、教育委員会との連携が重要である。地域の中学校・高校に対する周知は、教育委員会を経由して行うことが効果的である。市内の全中学校に広報メールを発信していただくなど多大な協力をいただいている。本学でも学校に直接電話をしたり、学内の方々の伝手を活用したりするなどして、周知活動を行い十分な参加校確保ができている。
- 出張講義先の中学校・高校、連携先企業や講義を担当していただく教員など、関係する皆さんとのコミュニケーションが大事である。メールのみで要件を伝えがちであるが、実際に対面で説明しコミュニケーションをとることで、人間関係を構築していくことができる。大変な部分もあるが、一度人間関係が構築できれば、その後は円滑に物事が進む。これまで関係性がない団体に直接アプローチして説明に伺うのは難しいと思うので、既存のネットワークを徐々に広げていくイメージで取り組むのが良いと思う。



北九州市立大学
准教授 長さん

(3)私立大学のモデルケース

①八戸工業大学（STEAM 女子推進・支援室）

活動経緯・概要

- 八戸工業大学では、「女子中高生の理系進路選択支援プログラム（JST）」への応募をきっかけとしてリコチャレ関連プログラムを開始した。最初に応募した際は採択されなかったが、その後、自主事業として取組を継続し2年後に採択された。
- 採択されるまでの期間、地域の校長会などで取組の説明を行うなど精力的に活動し、徐々に地域・高校との協力体制・ネットワークを構築した。高校とのコミュニケーションが増える中で、高校の教員からリコチャレ関連の取組の重要性に賛同・応援いただいたことも原動力となり、取組を継続することができた。
- 本大学のリコチャレ関連プログラムは、「女子中高生の理系進路選択支援プログラム（JST）」で実施した内容をベースとして、「めざそう、はたらく理系女子」として継続的に実施している。このプログラムでは、青森県などの北東北において理系分野を学び、はたらく女性の増加をめざしている。講演・実験教室・ロールモデルの女性の働き方の紹介などを通して、女子中高生が男女の枠にとらわれずに理系進路を選択し、「なりたい自分・やりたいこと」を貫けるようサポートしている。

中高生に配布している冊子

めざそ
はたらく
理系女子



リコチャレ関連プログラムの概要

- 地域の高校からの要請に応じて、当該高校での講演（ロールモデルの講演を含む）や理科実験を行いうイベントを実施している。中学生に対しては、地元NPOとの連携により、大学見学に来た生徒たちへ、講演で理系大学卒業後の仕事や社会との関わりについて説明している。



担当者からのメッセージ

- どの大学でも課題となり得るのが“参加者の確保”だと思う。本学も苦労しているところであるが、上手くいったケースもある。そのプログラムは6月下旬頃にフィールドワークを行うものであったが、“試験直後の日曜日”に開催することにした。参加者は高校生なので、定期試験やスポーツ大会などの学校行事の実施日程などを考慮に入れて日程を検討することが重要。自分が女子高校生の親であるため高校生の日程をつかみやすかったが、高校ホームページに掲載された年間予定や高校の先生の意見も参考になった。
- 本学なりにどのようなキャッチコピーが効果的か検討し、女子高校生にとって身近な言葉を使用して、チラシに「生物の気になる女子あつまれ！」というキャッチコピーを大きく掲載した。キャッチコピーとチラシのデザインが功を奏し、多くの参加申込をいただくことができた。



八戸工業大学 工学部
教授 鮎川さん

②帝京大学（理工学部）

活動経緯・概要

- 帝京大学では、理工学部の女子学生が少ないという課題意識から理工チャレンジ関連プログラムを推進している。取組を開始したのは2016年頃で、オープンキャンパスとは別に、主に女子中高生向けの取組を行っていた。
- オープンキャンパスでは、理工学部に興味のある男子高校生の参加割合が高いため、女子中高生に理工系分野を知つてもらうには限界が見えた。このため、進路を決める段階の女子中高生や保護者も含めて、本学の理工学部の研究を知つてもらうことで、理工系に対するイメージを変えてもらうことを目指して活動を行っている。2018年に、「女子中高生の理系進路選択支援プログラム（JST）」に採択されて、さらなる取組を開始した。
- 次の世代の女性が理工系に進学後のキャリアをイメージできるように「次世代に継（つな）ぐサイエンスキャリア」と題して女子中高生を対象とした企画を開催した。現在はこの取組を継続して、理工学部の教員が中心となって、「研究者のタマゴになろう」、「おうちで理科実験」、「女性エンジニアとのキャリアカフェ」などの活動を行っている。

リコチャレ関連プログラムの概要

- 本大学では、毎年、夏季期間中に、前述の「研究者のタマゴになろう」というプログラムを実施している。本プログラムは例年行っている定番プログラムとなっている。また、近年は周知が広がり、各自治体からのサイエンスキャンプの依頼が増え、キャンパスのある栃木県内を中心に県北、県央、県南で女子生徒対象の企画を行なっている。
- 本プログラムは、理工学部がある宇都宮キャンパスにて、女子中高生と保護者等を対象として、大学施設を見学していただきながら大学で行なっている研究活動等を体験してもらうものである。また対話型の「キャリアカフェ」として、参加者同士、または理工系企業のロールモデル等との対話の時間も設けている。



担当者からのメッセージ

- 理工学部の女子学生の増加を目的として、リコチャレ関連プログラムを開始した。現在は、地域性も含めた女子生徒の進学や理工系分野の進路選択の多様性を知つてもらおうと活動している。
- これまで10年程度活動してきたが、本学の理工学部の女子学生の比率は理学系以外大きく増えてはいない。しかし、継続することで県内の自治体からの依頼が増えて取組が浸透していると実感している。女子高校生が理工学部に進学することを促すためには、個別の大学の受験者数を増加させるという観点ではなく、理工系分野に対するイメージを変えていくという観点で取り組むことが重要だと思う。このためには、長い期間をかけて、低学年も含めた女子中高生、または彼女らを取り巻く保護者や教員の意識啓発を行っていくことが必要であると実感している。
- 本学の受験者増加の観点にこだわらず、教育機関として、継続的な活動を実施していくことが重要。こういった活動を続けることで、結果として、我が国全体の理工系に進学する女子高校生が増加していくと思うので本学の女性比率も向上すると考えている。



帝京大学 理工学部
准教授 平澤 さん

(4) 高等専門学校のモデルケース

①高知工業高等専門学校（Techno-Girls of Kochikosen）

活動経緯・概要

○2015（平成27）年に、女子学生数が増加傾向にあり、彼女らをサポートする女子会組織として「TGK（Techno-Girls of Kochikosen）」を立ち上げた。以前から、女子総会という組織体があったが、これは、女子学生の学生生活（更衣室の利用など）に対するサポートを意図したものであった。また、比較的女子学生の比率が高かった「環境都市デザイン工学科」に在学生とOGのコミュニケーション活動を行う組織があった。他の学科でもこのようなOGとのつながりがほしいとの学生からの声を受け、全学的な組織としてTGKが発足した。本高専では、このTGKが主体となって、リコチャレ関連プログラムを推進している。

リコチャレ関連プログラムの概要

○TGKは、「科学教室の作業、指導、企画等に参画できる自立的・自律的女子学生の育成」を目標としており、所属する女子学生が主体となって、主に女子小中学生を対象に学内・学外施設にて公開講座や、科学実験教室などを実施している。

○リコチャレ関連プログラムとして、TGKが主体となって、右記のような「リケジョ☆ひろば」や「科学実験教室」の企画～当日運営までを行っている。プログラムの中に、必ず「カワイイ」要素を取り入れることが、TGKのテーマである。

○主な活動は「高知みらい科学館（オーテピア高知図書館内）」で開催している「科学実験教室」である（公開講座「科学教室 高知高専テクノガールズ科学実験教室」として実施）。同科学館とは包括連携協定を結んでおり、本プログラムを含む公開講座などの実施において連携している。



担当者からのメッセージ

- TGKの活動は、地域貢献や学校PRとともに、在学生の教育効果創出を狙った取組である。TGKに所属している女子学生からは「いま自分が何をすべきを考え行動できる能力が身についた」等の声があり、社会人基礎力の向上や人格教育につながっている。これからの時代は特に課題を発見して、それを解決していく能力が求められる。これらの能力をTGKの活動を通して育成していくことが重要であると考えている。
- 教育効果を狙った取組であることが、全学的な活動として賛同いただけている大きな要因である。活動当初は、学内でこのような教育効果が創出されることについて理解が浸透していなかったが、取組を重ねていくことで、全学的に実施効果が認知され、活動が継続・活性化している。

「リケジョ☆ひろば」の開催

2014年から2020年の間で
商業施設を会場として9回実施
(2020~2022年はコロナ禍のため中止)



地域のイベントへの参加

2019年から2022年の間で地域の
イベントに参加



「科学実験教室」の開催

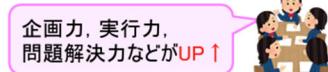
2018年11月から毎年(年2回)
高知みらい科学館を会場として実施
(2020~2022年はコロナ禍のため中止)



先生役は学生!!

テーマ

- 必ずどこかにカワイイを取り入れる
- みんなが楽しめる内容に



企画力、実行力、
問題解決力などがUP↑



高知工業高等専門学校
教授 赤松さん

3 理工チャレンジ プログラムの企画・実施

ここでは、理工チャレンジ プログラムの企画・実施について、有識者からのコメントを交えて概説します。

(1) 理工チャレンジ プログラムの企画

理工チャレンジプログラムの企画については、以下のような『6W2H』を検討し実施していくといった方法が考えられます。

【イベント企画の 6W2H】

項目	内容
Why/なぜ	○目的、開催趣旨・意図
What/なにを	○テーマ、実施・プログラム内容
How/どのように	○実施・演出方法
Who/だれが	○主催者、主催組織・スタッフ
Whom/だれに	○対象者、来場者
When/いつ	○開催実施・期間/時間
Where/どこで	○開催場所・会場
How much/いくらで	○予算・収支計画



有識者からのコメント

イベント企画とは

- どのようなイベントも達成したい目的のために実施するものである。「なぜやるか」を整理してテーマを設定し、「何をやるか」を検討することが重要となる。リコチャレの推進が「なぜやるか」（WHY・目的意識）になると思うので、「何をやるか」について、大学の状況と整合性を取った形で整理するのが良いだろう。
- 目的意識を根幹として、イベントの基本要素である『6W2H』を検討していく。これがイベント企画である。イベントを企画する際に「難しくてよくわからない」という状態になってしまふことが最もよくない。ひとつずつ整理していくことが重要である。

①理工チャレンジ プログラムにおける 実施目的（Why/なぜ）

イベントを企画する際には、具体的な目的（認知度向上、新規開拓など）を設定することが重要になります。理工チャレンジプログラムにおいては、上述の「1（2）理工チャレンジプログラム実施の狙い・効果」に挙げたような意義・メリットを得ることが実施目的となります。ただし、「1（2）②学校経営上のメリット」については、大学・高専によって、状況が異なります。貴学に馴染む目的（学校PR、教育効果、地域貢献など）を設定してください。



モデルケース校の取組

名古屋工業大学の例

○理工系の進路を選択して、その女子学生が研究者となって社会で活躍する。それにより、さらに理工系の進路を選択する女子学生が増える。こういったサイクルを生み出すためには、女子中高生を対象に、早い段階からアプローチしていくことが重要であると考えている。一方、短期的な目標として、工学部の女子学生を増やしたいという思いもある。オープンキャンパス時に学科別に女子学生との座談会を開催するほか、対象を女子学生に限定したオープンキャンパスも実施している。

八戸工業大学の例

○大学組織としては、リコチャレ関連プログラムが地域での大学PRに繋がり、将来的な入学者確保にも繋がることに期待している。また、社会的な要請に対応していくという点からも大きな意義がある。本プログラムの実施により、学内全体で「理系分野を学び、はたらく女性が増加していくことの重要性」に関する機運が高まっている。

北九州市立大学の例

○リコチャレ関連プログラムは、地域貢献の一環と位置付けて実施している。公立大学としては地域貢献の一環と整理することで、学内に浸透しやすくなつたと感じている。また、北九州地域は製造業が多く、企業から、女性活躍推進の観点から理工系女子育成の要請がある。こういった、社会的・地域的な要請からリコチャレ関連プログラムを推進している。

高知工業高等専門学校の例

○本学のリコチャレ関連プログラムは、地域貢献や大学PRとともに、在学生の教育効果創出を狙った取組である。参加した女子学生からは「いま自分が何をすべきかを考えて行動できる能力が身についた」等の声があり、社会人基礎力の向上や人格教育につながっている。これから時代は課題を発見し、解決していく能力が求められる。こういった能力を活動を通して育成していくことが重要であると考えている。

お茶の水女子大学の例

○国立女子大学のミッションとして、理工系女性の活躍促進のため、女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成に資することを目的として活動を行っている。

②理工チャレンジ プログラムにおける 実施内容（What/なにを How/どのように）

理工チャレンジプログラムを企画する際、効果的な実施内容を検討することは特に重要です。プログラムから参加者が何を得られるかを明確にすることで、参加者の参加意欲を高め、参加者を確保することに繋がります。ここでは、「a)ロールモデルによる講演」と「b)理科実験の実施」の2パターンのプログラムを取り上げます。

a) ロールモデルによる講演

有識者によると、“理工系”に対するステレオタイプなイメージ（ハードワーク、就職先が限定されるなどのネガティブなイメージ）が理工系分野に女子が増えない（理工系分野の進路を選択しない）要因のひとつではないかということでした。

理工系に対するステレオタイプなイメージを払拭するには、“ロールモデル”的提示が有効です。ロールモデルを提示するに当たり、女子学生の憧れを喚起するような社会的に大きな成功をされたロールモデルとともに、親近感を感じるごく身近なロールモデルを提示することも重要です。



有識者からのコメント

理工系分野に女子を増やすためのアプローチ/ロールモデルの重要性

- “理工系”に対する保護者が持つステレオタイプなイメージが子（女子学生）の理工系への進路選択を阻んでいる可能性がある。様々な進路があって良いが、理工系に対するステレオタイプイメージが原因で理工系の進路選択が遡上に上がらないのは不健全な状態である。このため、理工系に対するステレオタイプのイメージ、さらに、理工系女性に対するアンコンシャスバイアスを払拭するような取組を行うことが重要である。
- ステレオタイプなイメージの払拭のためにはロールモデルの提示が有効である。憧れを喚起するような「社会的に大きな成功をしたパワフルなロールモデル」の他に、女子学生が自分の進路として身近に感じられるような「ごく普通に生活しているようなロールモデル」の提示も必要である。



モデルケース校の取組

お茶の水女子大学の例

- 完成された（研究で何かを成し遂げたなど）理系女性のロールモデルを提示することも重要であるが、本学のリコチャレ関連プログラムでは、より若手（20代後半～30代）の理系女性のロールモデルを提示することを念頭に置いている。若手の理系女性に、なぜ理系に進学したのか、または高校・大学時代に何をしていたかなど、ご自身の経験・体験を話していただいている。これにより、参加者に、理系女性をもっと身近に感じていただき、理系女性といつても色々なケースがあることを知ってもらいたいと考えている。

高知工業高等専門学校の例

- 本校の女子学生（TGK）がイベント運営を行うことで、参加者である女子小学生・中学生にごく身近なロールモデルを示せているのではないかと感じている。参加者の中には、TGKの活動をしたいという反響もある。

内閣府では、理工系分野で活躍する“STEM Girls Ambassadors”による理工系の魅力発信（[理工系女子応援大使のご案内](#)）を推進しています。貴学が実施する理工チャレンジプログラムでも活用することが可能ですので、ぜひご活用ください。

b) 理科実験の実施

内閣府が実施した令和3年度「女子生徒等の理工系分野への進路選択における地域特性についての調査研究」において、女性の理工学部志望者は、数学や物理が好きで、幼少期の科学館・博物館体験や大学や自治体のイベント等の理系的経験をしている割合が多いことが分かりました。この結果から、理工系分野に興味を持つきっかけとして理系的経験が寄与しているものと考えられ、理工チャレンジプログラムにおいて、理系的経験としての理科実験を行うことが重要となります。

また、幼少期の科学館・博物館体験や大学や自治体のイベント等の理系的経験をした割合は、人口規模が「5万人未満」の地域で少なく、理工系に対する興味を深める機会が不足していると考えられます。このため、特に地方部では、理系的経験を持つ機会として、理工チャレンジプログラムでの理科実験等の実施を推進していくことが重要です。



モデルケース校の取組

名古屋工業大学の例

○「モノづくりチャレンジ 3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」の企画のポイントは、「好きなものをデッサンして、それを作れる」ところにある。工学に興味を持っていない女子生徒に工学部という存在を知らせることが重要。そのために3Dプリンターで物を作るという“間口の広い”内容としている。

北九州市立大学の例

○担当する教員のやりがいの観点から講義・実験内容は各教員にお任せしている。その先生らしさを尊重したい。ただ、ひとつだけお願いしているのは、参加する学生が楽しんでもらえるような内容にするということである。中学生にとって難し過ぎたり、担当する教員の研究内容を細かく伝えたりするような講義・実験になることは避けたい。中学生が分かる知識の範囲で、かつ少し背伸びをする位の内容が良いと感じる。「楽しい」というのが重要である。

c) その他

ロールモデルによる講演や理科実験の他、実施内容に、貴学の経営上のメリットに繋がるような工夫を盛り込むことも可能です。貴学の経営上のメリット（学校 PR や教育効果の創出、また地域貢献 など）になることを盛り込み、貴学ならではの理工チャレンジプログラムをご検討ください。



モデルケース校の取組

高知工業高等専門学校の例

○本学では、地域貢献や大学 PR とともに、在学生の教育効果創出を狙っている。プログラム運営に参加した女子学生からは「いま自分が何をすべきかを考えて行動できる能力が身についた」等の声があり、社会人基礎力の向上や人格教育につながっている。

帝京大学の例

○参加者に、帝京大学の理工学部をより深く知つてもらえるよう、宇都宮キャンパス内の施設・設備をみていただくとともに、学科の学習内容に応じた理工系実験プログラムを提供している。

③理工チャレンジ プログラムにおける 実施主体・対象 (Who/だれが Whom/だれに)

イベントを実施するにあたっては、企画～当日運営まで、様々なフェーズがあります。それぞれのフェーズにおいて、どのように取り組んでいくかを検討するためにも、準備や当日運営のスタッフをどのように配置するか等実施体制を整理し、役割分担を明確にすることが重要です。

a) 推進チームづくり

イベントを成功させるためには、当該イベントを主体的に推進していくチームづくりが重要です。役割を明確化することで、各メンバーが責任を持ち、効率的にイベントの準備・運営を行うことができます。必ずしも人的リソースに余裕があるわけではないかと思いますが、特定の教員・職員に負担が集中しないようなチームづくりを心掛けることが重要です。「言い出した人が全てやる」ということがないよう、学内のトップ層にも関わっていただくなどして、効果的なチームづくりのための機運醸成に取り組んでください。



モデルケース校の取組

名古屋工業大学の例

○ダイバーシティ推進センターの取組の一環として推進している。リコチャレ関連プログラムの企画や準備、各種調整、当日の運営計画などは担当教員が行っている。担当教員に対する全般的な業務サポート・ウェブサイト制作支援を担う「研究支援員」がいる。参加者募集・管理や学内の日程調整などはダイバーシティ推進センターの事務スタッフがサポートしている。当日までの準備や指導には在学生やOGも参加している。

兵庫県立大学の例

○本学のリコチャレ関連プログラムは、「ダイバーシティ推進室」とその分室である「姫路工学キャンパス分室」、また工学部の3者が連携して実施している。オープンキャンパスを活用して実施するプログラム“サマーカフェ”は、大学全体の取組である（大学PR）ため「ダイバーシティ推進室」が主の推進主体となる。一方、自治体が実施するリコチャレ関連プログラムに協力する場合は、地域連携の意味合いが強いため「姫路工学キャンパス（工学部）」が主たる推進主体となる。

高知工業高等専門学校の例

○本学では、生徒の企画力やコミュニケーション能力の向上、教育効果の創出を目指して、TGK（約40名）に参加する生徒が主体となって推進している（数名の担当教員がサポート）。外部組織との調整などは、総務課などもサポートしている。

八戸工業大学の例

○本学では、「STEAM 女子推進・支援室」が担当している。最初から組織があったわけではなく、HITリケジョLABOという理系女性教職員の自主組織からスタートした。当初は、担当教職員以外、誰もいなかつたが、学内各所に働きかけ、他の教員・職員の協力を得られることになった。それでも学内の“有志が頑張っている”という形から抜け出せずにいたが、「女子中高生の理系進路選択支援プログラム（JST）」に採択されたことをきっかけとして、学内での組織化につながった。

お茶の水女子大学の例

- 本学では、「理系女性育成啓発研究所」が主体となって推進している。リコチャレ関連プログラムの企画と運営は、研究所の兼任や研究員となっている教員（4-5名程度）、非常勤職員（アカデミックアシスタント等）が担当している。実験教室などは、メンバー以外の学内の教員にお願いすることもある。本学のプログラムは、「理系フロントランナー・シーズ発掘・育成・強化プログラム（JST）」として、全学をあげて推進している取組であるため、メンバー以外の教員からの協力を得やすい。また、プログラムによっては、連携している企業が企画と運営を行うこともある。
- これから理工チャレンジプログラムを実施していく大学にとっては、学内の教員の協力を如何に得るかということが課題になりうる。すぐに協力をいただくことは難しい場合もあるが、地道に重要性を説明していくことで、協力は得られると思う。多くの教員を巻き込んで、大学全体で推進していく体制づくりが長期的に実施していく鍵になる。

北九州市立大学の例

- 本学では、学務課所属の担当者と専任教員、またサポート人員（コーディネーター）の3名を中心として活動している。このほかに、支援してくれるメンバーが各学科に2名程度、さらに数名の教員のサポートを得て実施体制を組んでいる。大学全体を巻き込んで人員を確保することで円滑に実施できている。担当教員は、出張講義先の中学校・高校や連携先（自治体や企業等）との連絡調整や当該講義を担当していただく教員との調整など、全体的な差配や、新しい企画の立ち上げなどを行っている。パターン化している業務連絡は、事務職員が行っている。
- 実際の出張講義は、本取組を開始する際に集まった有志（約5名）を含む数人の教員が担当している。皆、公開講座など、学外への講座・講義に意欲的なメンバーである。本学の工学部（国際環境工学部）は比較的の規模が小さい。その分、教員同士がお互いに見知った関係であり、協力要請や相談がしやすい。
- さらに、自治体/教育委員会や地域の企業などの外部組織とも連携してリコチャレ関連プログラムの企画・広報・実施を行っている。公立大学として自治体（教育委員会）と連携しやすいことが本学の活動の強みとなっている。

帝京大学の例

- リコチャレ関連プログラムを推進する明確な組織・部門があるわけではない。理工学部の有志の教員を中心として、総務グループがサポートする形で実施体制を組んでいる。理工学部には、5つの学科があり、それぞれの学科から1名の教員が参加。総務グループは4名程度が担当している。
- 実施体制としては小規模であると自覚しているが、その分、気軽に楽しみながら活動してきた。小規模であるが故に身軽に柔軟に活動を行うことが出来ている。また、この地域で、理工系分野に関する取組を行うことができる原因是、本学の理工学部しかいないという使命感もある。こういったことが、これまで活動を継続できた要因のひとつである。

b) ステークホルダー等との連携

イベントは、必ずしも主催者が単独で実施するものだけではありません。イベントを実施することで貴学が達成しようとする目的のため、必要な団体と連携することも重要です。



モデルケース校の取組

帝京大学の例

- 本学が単独でイベントのホームページを作成したり、チラシを作成し配布をしたりしても必ずしも十分な参加者を確保できるとは限らない。また、ホームページやチラシを活用した広報では、理工系に関心のある層にしか認知されない。理工系に関心のない層にアプローチし参加者数を確保するため、県や市区町村に積極的に相談し、協力を得ることが重要。県や市区町村からの協力が得られたことで、中学生や高校生にイベント情報を効果的に伝えることができるようになった。

兵庫県立大学の例

- 高校生だけではなく、下の年代である中学生等に対してもアプローチしていく必要性を感じた。実施方法を検討している中で、2023年に姫路市が主催するリコチャレ関連プログラムへの協力要請をいただいた。このプログラムは、女子中学生を対象としており、中学生等へアプローチできるものであったため協力を行った。このイベントが好評であったことを受け、その翌年にはたつの市からもリコチャレ関連プログラムへの協力要請を受け、協力する運びとなった。

高知工業高等専門学校の例

- 「科学実験教室」は「オーテピア高知図書館（高知みらい科学館）」にて実施している。当該図書館とは包括連携協定を結んでおり、この取組に限らず、学校全体として公開講座の実施などについて連携している。会場として使用しているほか、広報面でも協力いただいている。
- 同図書館が出来た当初、学校として包括連携協定のお願いを行った。本校は、人脈の伝手でアプローチしたが、仮に人脈がなくても、公的な機関・団体は信頼性があるので、率直にお願いすればスムーズに話が進むのではないか。

c) ターゲット層の検討

イベントは、特定のターゲット層への働きかけを目指すものです。

モデルケース校の取組からは、将来的な入学候補者への働きかけも含めて、さらに低年齢層（大学の場合、高校生のみではなく、中学生も含めて）もターゲット層としているケースもみられました。

ターゲットによって、興味・関心の対象が異なるため、具体的なターゲット層を想定し、当該ターゲットに合わせたイベント内容を設定することが重要です。



モデルケース校の取組

お茶の水女子大学の例

- 理工系女性人材の層を厚くするために、初等・中等教育期間の女子生徒に理工系分野への興味関心を抱く機会を提供すると共に、女子生徒の進路選択に大きな影響を与える保護者や教員に対して、理工系分野への進路選択に関する情報提供等を行っている。

高知工業高等専門学校の例

- リコチャレ関連プログラムとして、TGK が主体となって、「リケジョ☆ひろば」や「科学実験教室」の企画～当日運営までを行っている。プログラムの中に、必ず「カワイイ」要素を取り入れることが、TGK のテーマである。

④理工チャレンジ プログラムにおける 実施日時・場所 (When/いつ Where/どこで)

イベントを実施するにあたっては、いつ実施するか、どこで実施するかも重要な要素です。これは、上述のターゲット層と密接に関係します。参加者確保の観点からは、ターゲット層にとって参加しやすい日時・場所で実施することが重要となります。昨今では全国から気軽に参加可能であるオンラインでの実施も盛んに行われています。



モデルケース校の取組

お茶の水女子大学の例

- これまでの経験から、どのタイミングでイベントを実施すると参加者確保がしやすいかなどのノウハウが蓄積している。本学の経験から言うと、4～9 月の間は比較的参加者が確保しやすい。そのほか、定期試験の時期や、中学・高校の行事（体育祭など）が行われる時期は避けるなど注意している。
- 本学は都市部に立地しており比較的交通利便性が高い。また、イベントによってはオンライン参加も可能としており、参加しやすい環境を提供することを心がけている。

八戸工業大学の例

- 参加者は高校生なので、定期試験や学校行事の実施日程などを考慮に入れて開催日程を検討することが重要。各高校の行事予定は近隣の学校のホームページで把握し、協力的な高校の教員にもスケジュールの確認をした。状況を把握して開催日程を検討し、“試験直後の日曜日”としたことに加えて、高校生がバスで来やすい集合場所や時間を設定したことで、多くの方に参加いただくことができた。

高知工業高等専門学校の例

- 本校は市街地からは遠いところにあり、一般の方や女子中学生などを対象としたイベントを実施するにあたってはアクセスが良いとは言えない。そのため、アクセスの良い場所（連携先の図書館やショッピングモールなど）でイベントを実施するようにしている。当たり前かもしれないが、参加者を確保するならアクセスの良い場所、賑わいのある場所で実施するのが良い。

⑤理工チャレンジ プログラムにおける 予算計画（How much/いくらで）

大学・高専が主催するイベントでは、3（1）①イベント実施の目的によって、どういった予算を活用するかが異なるものと考えられます。

いずれの目的で予算要求をする場合でも、下記のようなポイントに留意して要求内容を整理することで、学校内部での賛同も得られやすく、実施メリットの創出に繋がります。



有識者からのコメント

予算獲得のための基本的な考え方

○大学は、少子化が進む中で、将来を見据えた大学改革を進めていかなければならない。このため、特に大学経営/大学 PR に資する取組については積極的に採り入れていくだろう。これを前提として、下記のような「①大学の教育方針」、「②学部/学科の魅力発信」、「③入学者獲得」の3点に注意を払うことが重要である。

①学校全体の教育方針に沿う

- 教育機関が理工チャレンジプログラムを推進していくにあたっては、それを行う“大義”を設定することが重要である。この点、本取組は政府主導によるもの、また、上述の「社会的意義」に資する取組であることを整理・認識して推進していくことが重要。

- 学校の教育方針（アドミッションポリシー 等）に沿った内容とすることも重要。例えば、貴学が求める学生像とその育成や学生獲得に資する取組であることを整理し学校全体の教育方針と齟齬がないように実施内容を整理すると良いだろう。

②学部/学科の魅力発信に繋げる

- プログラムの内容次第では、学部の魅力発信に繋げることができる。例えば、貴学出身のロールモデルの講演、また、理工系学部の教育・研究内容に準じた実験教室を設定することで、プログラムを通して貴学の学部/学科の P R を行うことができる。

③入学者獲得に資する

- 例えば、オープンキャンパス時などにイベントを実施することで入学者獲得に繋がる。

- 学校経営上のメリットとして分かりやすいため、これまで理工チャレンジプログラム等を実施したことのない学校にとっては、この観点から実施内容の検討を行うことで学内から理解が得られやすいだろう。

(2)周知・広報

①周知・広報方策

イベントを実施する際、参加者確保（集客）が常に課題となる。民間企業が大きなイベントを実施する際には相応の費用をかけて広告・宣伝を行う。これは、一定の売り上げをあげるために一定の金額をかけて広告・宣伝を行うという考え方に基づくものであり、大学・高専が行う理工チャレンジプログラムで行う周知・広報とは考え方方が異なる。なるべく費用をかけずに効果的な周知・広報を行うため、以下に大学・高専にとって相性のよい周知・広報方策を整理した。

a) オウンドメディアの活用

理工チャレンジプログラムの周知・広報を行うベースとなるのは貴学のオウンドメディア（貴学ホームページや公式SNS、広報誌など）である。



有識者からのコメント

効果的なイベント周知の工夫

- そのイベントに『誰が出るのか』を伝えることが重要である。出演するロールモデルが著名な方であればかなり集客効果があるが、そうでない場合でも、周知用ウェブページなどで、しっかりと顔も出して経歴などを出せる方であれば、『この人と会える』という参加者の期待感につながり、周知広報の効果が高まる。



モデルケース校の取組

名古屋工業大学の例

- イベント情報ページの周知については、近隣の都道府県にある学校にチラシを置かせていただいているほか、イベントの周知期間に大学のトップページにてバナー画像等を設置している。大学ホームページでの周知については、外部から多くの閲覧者が増えるタイミングで周知バナーを掲載すると大きな効果を得られやすい。例えば、本学が、“漢字検定”的会場になったことがあります。受検者が本学のホームページを閲覧し、閲覧者が急増したことがあります。そのタイミングで女子小中学生対象のイベント周知を行い参加者確保がスムーズに進んだ経験がある。

北九州市立大学の例

- 本学では、「サイエンスラボ・from 北九州」の活動についてのホームページを開設・運営して、周知広報のベースとしている。このホームページは専任教員が管理・運営している。また、大学のSNS（YouTubeチャンネル、Instagram、X、Facebook）でも広報を行っている。

なお、内閣府では、[理工チャレンジのウェブページ](#)を開設・運営しています。このウェブページでは、大学・高専、または企業・団体が実施する理工チャレンジプログラムの情報発信を行っています。イベント情報を登録いただければ当該ウェブページで貴学イベントの周知・広報を行うことができますのでぜひご活用ください。

【内閣府 理工チャレンジ イベント情報ウェブページ】

イベント参加者の方へ

カレンダーから探す  カレンダーの日付をクリックすると、イベントの詳細をご覧になれます。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

2025年3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					



モデルケース校の取組

お茶の水女子大学の例

○大学のホームページや研究所のホームページで理工チャレンジプログラムを紹介している。また、理工チャレンジプログラムを「理工チャレンジ（リコチャレ）」ウェブサイトのイベント情報のページに登録している。カレンダー形式になっていてわかりやすく、イベント周知効果が大きいと思う。“リコチャレ”という言葉の認知度が高いため広報効果が高い。

名古屋工業大学の例

○本学の周知・広報のベースは、『女子中高生進路支援「工学の扉を開こう」』のウェブサイト。本ウェブサイトには全国から多くのアクセスがある。本学のウェブサイトへの全国からのアクセスが多いのは、内閣府の理工チャレンジ（リコチャレ）のウェブページに「理工系女子応援ネットワーク」として登録させていただいた効果だと感じている。

b) 広報チラシ等の作成・配布

個別のイベントの周知のためには広報チラシを作成することも効果的である。広報チラシは、自学が配布する他、連携先に配布いただく、または地域の公的施設などに置いていただくなど、汎用的に活用することができる。



モデルケース校の取組

北九州市立大学の例

- リーフレットやチラシについては、本活動のサポート人員（コーディネーター）が作成している。このコーディネーターは民間企業に所属している方で週に1回程度大学で業務を行っており、チラシ等の作成の他、打ち合わせへの参加、イベント当日の運営なども担っていただいている。なお、チラシはAIサービス（簡単にデザインを作成できる生成AIツール）を活用して作成している。

c) 口コミの活用

継続的に理工チャレンジプログラムを実施している大学・高専においては、参加者の口コミによる集客効果も大きい。参加者が楽しめるプログラムを意識することで、口コミが広がっていく。口コミを活用した集客効果を得るためにには、継続的な実施が重要。場合によっては、規模の大きなイベントを1回実施するよりも、規模の小さなイベントを2回実施するなどして集客効果の高いイベントづくりを検討してみてください。



有識者からのコメント

口コミの活用

- 母親層へのアプローチとしては“口コミ”が効果的であり、子育て関連施設でのチラシ配布などが効果的である。また、あまり間を空けずに複数回のイベントを行うことで、1回目の参加者が満足してそれを知り合い等に伝え、2回目にその方が参加する、というサイクルを作ることができる。複数回実施することで、口コミによる集客効果が期待できる。イベント1回あたりの予算は低くしても良いので、2回、3回と実施する方が効率的である。



モデルケース校の取組

北九州市立大学の例

- 中高生向けのイベントについては、参加者の口コミ効果が大きい。リピーターも多いため、参加者確保のためには、個々のイベントを如何に楽しんでもらえるように実施するかが重要である。参加者が「つまらない」と感じたらその後の参加者確保が難しくなるだろう。

②ステークホルダー等と連携した周知

自治体との連携も非常に効果的です。



有識者からのコメント

効果的なイベント周知の工夫

- 大学が単独でイベントの集客を行うよりは、自治体と連携して周知活動を行う方が効果的である。自治体は、ホームページや広報誌で積極的に広報活動を実施してくれるだろう。
- 「リコチャレ」は政府の取組であり、社会的意義が大きい。公的機関であれば取組に賛同、協力をしてくれるだろう。



モデルケース校の取組

名古屋工業大学の例

- 本学のリコチャレ関連プログラムには名古屋市教育委員会に後援いただいている。これにより、名古屋市内の小中学生の保護者に向けてSNSを通じてイベント情報を周知していただきたり、市内の図書館にチラシを置いていただきたりしている。

帝京大学の例

- 中学、高校とも、教育委員会からの依頼でないと感じにくいことがあり、大学から直接学校にアプローチするより教育委員会を経由して依頼する方が、学校側が情報周知に協力していただきやすくなり、理工系に興味がない層も含めて、生徒や教員にイベント情報が届くようになった。
- 自治体が教育関連施策として女子中高生向けの理工系イベントに注力し始めた背景には、都市圏への人口流出があると思われる。特に若い女性が首都圏へ流出することへの懸念もあり、女性が地元で働く環境整備の一環として注力しているのではないか。

北九州市立大学の例

- 広報用のリーフレットやチラシを作成し、北九州市・水巻町教育委員会、北九州市立科学館「スペースLABO」などで配布している。また、出張講義については、連携先の北九州市教育委員会・水巻町教育委員会から、中学校長会等で出張講義の案内・募集をしていただいている。

高知工業高等専門学校の例

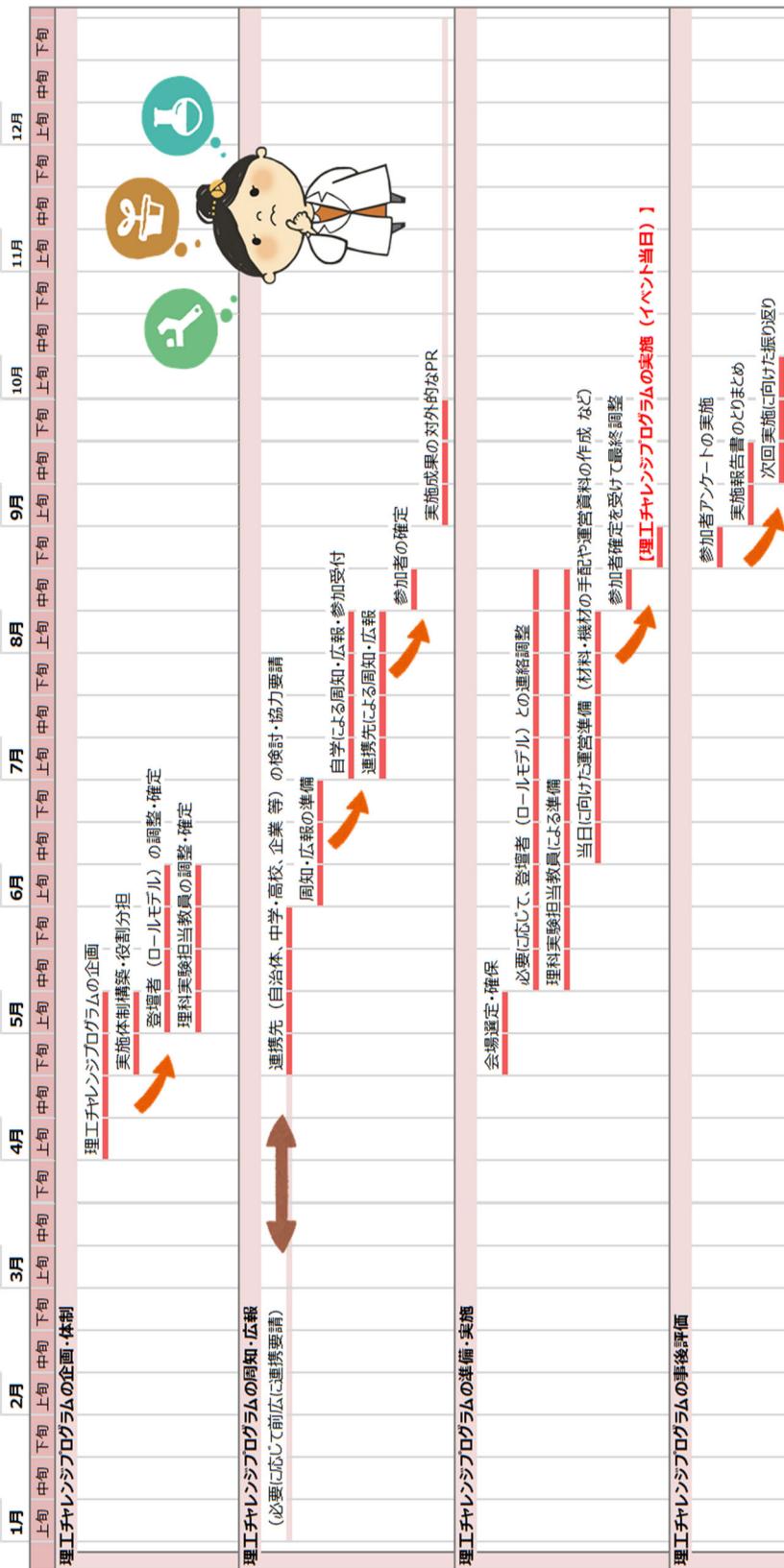
- 「科学実験教室」は、協定（オフィシャルパートナー協定）に基づき、「オーテピア高知図書館（高知みらい科学館）」で実施している。同図書館には、開催の数ヶ月前に開催内容（実施要項）を伝え、ウェブサイトや広報誌にて周知・広報を行っていただいている。同図書館では、本学の公開講座を含めて、日々イベントや講座などが実施されており、地域住民等は、同図書館でのイベントを積極的にチェックしている方が多いようで、本学の公開講座についても十分な広報効果がある。学校側でも学校ホームページやSNS（X、インスタグラム）などを用いて、周知を行っている。

(3) イベント実施に向けた準備・当日運営

① 準備のための想定スケジュール作成

理工チャレンジ プログラムは、大学・高専等によって様々なプログラム内容が設定され、かつ、推進体制も一定ではないと考えられます。このため、プログラム実施までのスケジュールも様々なケースがあると思われますが、ひとつの例として、実際に、理工チャレンジプログラムの準備～周知～当日の実施に至るまでのスケジュールイメージを以下に整理しました。

※「別添資料1：企画書 実例」の内容を夏休み期間（8月下旬）に実施すること想定したスケジュールです。





モデルケース校の取組

名古屋工業大学の例

- 本学の「モノづくりチャレンジ 3D プリンターでオリジナルグッズを作ろう！」では、参加者から、事前にデッサンの提出を受ける。イベント当日は、このデッサンに基づき CAD を使用して設計し、3D プリンターでのものづくりを体験するが、この準備、又は当日の参加者サポートは女子学生（在学生）が行う。
- サポートメンバーの女子学生は、参加予定者から事前に受け取ったデッサンを用いて、当日、参加者に効果的なサポートが行えるように、事前に 3D CAD で設計をしている。ただ、女子学生の全員が 3DCAD を上手く扱えるわけではない。このため、本学の OG を講師として、サポートメンバー向けに 3DCAD の研修を行っている。
- イベント当日、進行は講師の方にお任せつつ、在学生が参加者のサポートを行う。イベント当日、担当教員は、イベント全体を見渡し、必要なサポート（参加者への声かけ、保護者対応など）を行っている。

北九州市立大学の例

- イベント当日は、学内メンバーで全体の運営を行い、教員が講義を実施する。これまでの実績や、関連資料をもとに運営資料を作成し、円滑に実施・運営することができている。
- 出張講義を実施する際の講義内容は、個々の講義を担当する教員がそれぞれ作成することになる。講義内容や方法はテーマによって異なるため、汎用的なマニュアルは作成しづらいが、参考資料として、担当教員が過去に行った講義資料を共有するなどしている。既に出張講義をした経験のある教員はそれほど準備に時間を要しないが、新しく担当する教員には半年程度の準備期間を持っていただけるようにスケジュール調整をしている。

高知工業高等専門学校の例

- イベント本番の 2~3 週間前に準備を始める。「科学実験教室」は、主に何かをつくるようなイベントであるため、これに必要な物品の検討・購入を行う。その後、当日作るもの試作を行い、当日の段取りを決めていく。
- 参加者向けに、当日の次第や配布資料を作成する。運営関連資料は作成せず、参加者向けに作成した資料に基づいて、TGK メンバーが当日の運営を行う。この取組を開始した当初は、手探りで準備・運営を行ってきたが、先輩から後輩にノウハウが受け継がれ、企画や準備、当日の運営などもある程度は学生に任せられるようになっている。

帝京大学の例

- 毎年 2 月頃に、次年度の実施計画・広報計画の作成を開始。5 月頃に実施内容や広報のスケジュールが確定し、実験の準備などを開始する。実験の準備は担当する教員が行い、当日の運営は総務グループが準備を進める。当日は、本学が行っている高大連携の取組（高校生が大学に来て大学生体験を行うもの）を参考に運営対応を行っている。簡易なものではあるが、エクセルにて当日のスケジュール資料を作成している。

②運営計画の策定

一般的に民間企業等においてイベントを実施する際、イベント運営業務の「明確化・標準化・効率化」を目的として、運営スタッフ間で認識を共有するため、下記のような運営計画（運営マニュアル）を策定します。す。

理工チャレンジプログラムの場合は、大学や高専が主催する取組であるため、必ずしも全ての内容を事前に整理する必要はありません。ただし、運営計画を整理しておくと、当日、円滑に運営できます。可能な範囲/必要な範囲で作成してください。また、プログラム内容が複雑（複数の理科実験ごとに教室を変える 複数のロールモデルが出演しパネルディスカッションなども行う など）であったり、記念行事と併せて大規模なシンポジウムを行ったり（関係者が多い）する場合には、このような運営マニュアルを作成する必要性が高くなります。

イベント運営マニュアルの一般的な項目は以下となります。大きく、「基本情報」、「運営情報」、「スタッフ情報」の3パートから構成されています。

【イベント運営マニュアル 項目例】

【基本情報】	<ul style="list-style-type: none"> ・開催概要（6W2H） ・会場情報(交通、最寄り駅からのアクセス) ・会場レイアウト図(イベント会場、控室、搬入口) ・本番プログラム 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・受付 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・案内・誘導 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム内容(項目、担当) 	
【運営情報】		
【スタッフ情報】	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ体制図 ・スタッフタイムスケジュール ・スタッフ控室図 ・緊急時対応 	

※より詳しい内容については「別添資料2：運営計画書 実例」を参照ください。

【企画内容等改善のための参加者アンケートの実施】

理工チャレンジプログラムを実施する際は、可能な限り参加者アンケートを実施し、プログラムの実施効果や改善点を把握することが有用です。アンケート結果は、今後の理工チャレンジのプログラムの改善に繋がるほか、内部での実施報告にも活用できます。また、対外的にイベント効果・実施状況を説明する際にも活用できます。

なお、アンケート調査は、当日にアンケート用紙を配付して実施する方法のほか、オンラインでアンケートを実施する方法もあります。オンラインでのアンケートにした場合、回答結果の電子化（入力作業）を省略することができます。

【理工チャレンジプログラム 参加者アンケート 項目例】**1 理工系分野に対する興味関心の状況**

- ・これまでの理工系分野への興味関心の度合い（5段階）/その理由（記述回答）など

2 本日の各プログラムに対する満足度

- ・本日の各プログラム（ロールモデルによる講演、実験教室等毎の満足度・理解度）/その理由（記述回答）

3 本日のプログラムに参加した感想（理工系分野に対する興味関心の変化を含む）

- ・本日のプログラムに参加したことによる理工系分野への興味関心度合いの変化、全体的な感想

4 本日のプログラムを知った経緯

- ・本日のプログラムの情報を知った経路（大学・高専のホームページ、在籍する学校からの案内、理工チャレンジホームページなど）

5 参加者属性

- ・児童・生徒（学年、性別）、保護者、教員 など

6 今後他のプログラムの開催案内をしても良いか確認（連絡先等）

- ・今後の連絡可否、連絡先メールアドレス など

【事業報告書の作成】

アンケートに加えて、イベントの実施概要や当日の記録写真、良かった点や悪かった点を整理した実施報告書を作成しておくと、内部での実施報告や引継ぎの際の資料、または対外的なイベント実施状況の説明などに活用することができます。

【理工チャレンジプログラム 実施報告書 構成例】**1 実施概要（基本情報の整理、参加者数など実施結果含む）**

- ・日時、場所、当日プログラムなど実施概要
- ・参加した人数・内訳

2 当日のプログラムの実施内容

- ・当日の各実施内容情報
- ・講演者プロフィール

3 実施プログラムごとの記録写真

- ・当日の各実施プログラムの記録写真

※記録写真を公表する場合は、参加者の顔が写り込まないよう配慮してください。

※また、貴学のPR素材として、参加者が写っている画像が必要な場合は、本人の事前に許可を得て公表してください。

4 アンケート結果

- ・アンケートの集計結果

5 まとめ

- ・全体を通じたまとめ（良かった点、改善が必要な点 など）



(4)Q&A

Q「理工チャレンジ」とは、どのような取組ですか。問い合わせ窓口はありますか。

- 理工チャレンジ（リコチャレ）は、女子中高生・女子学生の皆さんが、理工系分野に興味・関心を持ち、将来の自分をしっかりイメージして進路選択（チャレンジ）することを応援するため、内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取組です。
- 理工チャレンジの取組に賛同している大学や企業などから成る『リコチャレ応援団体』の紹介や、リコチャレ応援団体が実施するイベント情報の提供、理工系分野で活躍する女性からのメッセージ紹介などを行っています。詳しくは、[理工チャレンジのウェブページ（内閣府ホームページ内）](#)をご確認ください。なお、同ウェブページでは、問い合わせ窓口を設けております。

【内閣府が中心となって行っている 理工チャレンジ の取組概要】再掲



5

Q「理工チャレンジ」の取組に賛同する「リコチャレ応援団体」の団体数は何団体ですか。本学も参加できますか。

- 「理工チャレンジ」には、主に、「①リコチャレ応援団体」、「②理工系女子応援ネットワーク」にて全国の団体に参加していただいている。「リコチャレ応援団」には936の団体に、「理工系女子応援ネットワーク」には232の団体に参加をいただいている（令和7年2月時点）。
- もちろん、貴学も参加可能です。[理工チャレンジのウェブページ（内閣府ホームページ内）](#)にて参加申込を行ってください。参加要件などは下記を参照ください（詳細はウェブページで確認ください）。

【リコチャレ応援団体と理工系女子応援ネットワークの違い 参加資格 等】

	①リコチャレ応援団体	②理工系女子応援ネットワーク参加団体
参加資格	○内閣府の進める「理工チャレンジ」の趣旨に賛同する団体	○リコチャレ応援団体のうち、女子生徒等の理工系分野への進路選択に向けた一貫した支援等（イベント開催、情報発信など）を主体的かつ積極的に進める産学官の関係団体
参加後に取り組んでいただきたいこと	○賛同の継続	○取組の継続 ○理工系女子応援ネットワーク会議への出席（任意） ※原則として1年に1回開催。理工系女子支援などに関する団体相互の情報交換等
申請方法	○リコチャレウェブページから登録	○リコチャレウェブページから申請 ※内閣府による確認があります。（過去1年間の取組実績など）。

Q 本資料に「ロールモデルによる講演」を行うことについて記載がありますが、登壇者のあてがありません。別の内容で実施しても良いですか。

- 理工チャレンジプログラムの実施内容は、貴学の状況に応じて、柔軟に検討してください。本資料にて記載しているロールモデルによる講演や理科実験教室を行うことを必須とするものではありません。
- ロールモデルについては当該校のOGに依頼するケースや担当教員等の伝手を辿って依頼するケースが多いようです。本資料にも記載した通り、“身近なロールモデル”を提示することも重要ですので、一般的な技術職の女性に自身の経験（理系に進んだきっかけ、日ごろの仕事の内容など）を語っていただくことも考えられます。
- また、内閣府では理工系分野で活躍するロールモデル「STEM Girls Ambassadors」の派遣希望を受け付けておりますので、ぜひご活用ください。理工チャレンジのウェブページの「[理工系女子応援大使のご案内](#)」をご確認ください。

Q 理工チャレンジプログラムを実施する場合、女子中高生を対象としなくてはならないのですか。

- 理工チャレンジプログラムは、“理工チャレンジ”的主旨に基づいて実施いただきたいと考えています。このため、基本的には、女子児童・生徒を対象としていただくのが望ましいです。ただし、大学生や男子児童・生徒を対象とすることも妨げませんので、各大学・高専の方針に基づいて柔軟にイベントを企画・実施してください。

Q 理工チャレンジプログラムを実施する場合、保護者も対象にしなければならないですか。

- 進路等について保護者が子どもに与える影響は非常に大きく、女子の理系進学についての保護者の理解が極めて重要とされています。このため、可能な限り保護者も対象（子どもと保護者が共に参加できる、または、保護者向けの独立したコンテンツなど）として検討いただければと考えています。
- ただし、保護者も対象に含めようするために企画が複雑化するなど実施が困難となる場合などは、無理に行う必要はありません。

Q 理工チャレンジプログラムを実施する際の周知・広報の支援はありますか。

- 上述の「リコチャレ応援団」に参加登録いただくことで、リコチャレウェブページで貴学の概要や取組内容を発信させていただきます。また、イベント情報を登録いただければ、リコチャレウェブページで貴学のイベント情報を発信することができます。本ページは、全国からアクセスがありますので、ぜひご活用ください。
- また、「リコチャレ応援団体」は、周知・広報にあたりイメージキャラクターである「リコちゃん」のイラストを使用することができます。詳しくは、リコチャレウェブページの「[リコチャレ応援団体」「理工系女子応援ネットワーク」への参加」をご確認ください。](#)
- また、リコチャレでは、毎年「夏のリコチャレ」を推進しています。これは、主に、女子中高生等を対象に、夏休み期間を利用して企業・大学・学術団体等が実施する理工系女子応援イベントに関する広報事業です。2024年には、119団体により228ものイベントが実施され、年々規模を拡大しています。
- 内閣府では、夏のリコチャレ特設ページでの情報発信のほかに、都道府県・政令指定都市等の男女共同参画関係課や教育委員会などへの事務連絡文書の発出、また、政府のSNSアカウントやメルマガ、広報誌などの情報発信を行っています。



○「夏のリコチャレ」へのイベント登録は、[理工チャレンジのウェブページ（内閣府ホームページ内）](#)にて、簡易に行うことができますので、ぜひご活用ください。

【夏のリコチャレ イベント登録 概要】

【登録事項】		【イベント登録フォーム（イメージ）】
イベント基本情報	備考	
イベント名	－	
イベントページURL	ページ作成中の場合は、URL決定後、登録することも可能。	
主催者名	－	
開催地域	別地域で実施するイベントは、別のイベントとして登録が必要。	
開催地	・別の場所で実施するイベントは、別のイベントとして登録が必要。 ・「都道府県名+市区町村名」を記載。	
開催日	・別日に開催するイベントは、別のイベントとして登録が必要。	
イベントの対象者	備考	
属性	・対象となるすべての属性にチェック。	
性別	－	

Q 周知・広報を行うポイントはありますか。

○大学・高専がイベントを実施するにあたっては、参加者確保・集客がひとつの大きな課題になると考えられます。これまでイベントの企画・実施など広報事業を実施した経験がない担当者にとっては、どこから手をつけたらよいか悩ましい部分もあるのではないかと考えられます。周知広報のポイントを以下に整理しましたので、参考にご覧ください。

【周知・広報のポイント】

① 情報発信のベースとなるもの（チラシやウェブサイト）の作成

- －イベント情報の周知・広報においては、まずは、イベント情報が整理して掲載されている情報源（チラシ、ウェブサイト）を作成することが重要です。
- －チラシはワードやパワーポイントなどの作成、ウェブサイトは大学・高専のホームページ内の案内で十分ですので、まずは情報源そのものを作成することを心がけてください。また、ウェブサイト上で参加申込ができることが望ましいです。昨今、ウェブツールが発達していますので、こうしたツールの活用もご検討ください。
- －広報資料を作成する際、出来れば、対象者となる女子中高生と親和性の高いようなデザインを心がけてください。本事業で意見を伺った有識者からは、中高生の興味を惹くには「漫画やアニメ」調のイラストが効果的という意見をいただきました。「リコチャレ応援団体」にご登録いただければ、イメージキャラクターである「リコちゃん」のイラストを無料でご活用いただけます。

② ①を活用した周知・広報

- －次に、上記①で作成したものにより多くの方に見ていただく取組を行います。大規模に実施する場合はマス媒体での広告やSNS広告などを実施しますが、貴学のオウンドメディアで周知（自学ホームページトップページ等にバナーを置く、自学SNSアカウントで情報発信（ウェブサイトに誘導するなど）することで、あまり予算をかけずに周知を行うことが出来ます。

③ 地域の自治体と連携した周知・広報

- －②のような周知・周知広報のみでは、十分な広報効果を得られない場合、地域の自治体と連携して、周知・広報の協力を得ることが重要です。
- －自治体からは、貴学と同様、オウンドメディアでの周知（ホームページ、広報誌等）のほか、教育委員会を通して、地域の学校に直接的な周知を行っていただくことも考えられます。理工チャレンジプログラムは、主に女子中高生等を対象とした取組であり、学校への周知が重要です。多くの場合、学校への周知は教育委員会経由でないとお受けいただけないことが多いと考えられますので、自治体（都道府県レベル及び市区町村レベル）との連携を検討ください。

【理工チャレンジプログラム モデルケース校 担当者対談】

(1) 対談 実施概要

対談の主旨

モデルケース校の担当者の皆様に、“担当者目線”での意見・感想を伺うため、対談を行いました。今回の対談では、モデルケース校の中から、国立大学、公立大学、私立大学、それぞれの担当者（担当教員）に参加いただいているます。

この対談では、モデルケース校の担当者がどのような想いで、どのような工夫を行っているかお話しいただきました。これを参考に、貴学の取組を推進していただければ幸いです。

参加者の紹介

本対談には、本資料でモデルケース校として紹介した大学のうち、下記の皆様にご参加いただきました。なお、本対談はオンラインで実施されました。

【理工チャレンジプログラム モデルケース校 担当者対談 参加者】

参加者	
<u>①国立大学</u>	名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター 准教授 加野さん
<u>②公立大学</u>	北九州市立大学 准教授 長さん
<u>③私立大学</u>	帝京大学 理工学部 准教授 平澤 さん

(2) 理工チャレンジプログラム モデルケース校 担当者対談

a) リコチャレ関連プログラムを実施する学校のメリット

—リコチャレ関連プログラムの実施は、国全体にとって大きな意義がある取組ですが、一方で、それを大学・高専が行うにあたっては、学校経営上のメリットに繋げることが重要なのではないかと思います。各モデルケース校の皆様にお話しを伺うと、社会的意義の他にも、「教育効果」、「地域貢献」、「大学PR」といったメリットがあるというお話を伺いました。皆さまは、リコチャレ関連プログラムを実施する学校経営上のメリットについてどのように捉えているか伺えますでしょうか。

北九州市立大学 長さん：本学の前校名は「北九州大学」であり、外事専門学校を母体とする大学でした。その後、2001年に北九州市立大学に改称し、国際環境工学部を開設しました。このため、まだ比較的、国内の工学部としての知名度が低いため、リコチャレ関連プログラムを推進していくことで、本学の工学部（国際環境工学部）をPRする狙いがあります。本学は、公立大学ですので大学として地域に貢献していくことが重要になります。本学のプログラムは、公開講座の一環として実施しています。現在は、主に北九州市内でプログラムを展開していますが、今後は、別の市・地域に貢献するような形で取組を広げていきたいと考えています。



帝京大学 平澤さん：本学は、私立大学ですので、リコチャレ関連プログラムを実施する大きな目的は大学 PR にあります。入学者を増やしたいということもありますし、理工学部の学生の女性比率を上げていきたいという意図もあります。本学は東京がメインのキャンパスですが、理工学部は、栃木県宇都宮市にキャンパスがあります。リコチャレ関連プログラムを実施すると、地元から意欲的に参加していただける生徒さんはもちろん、東京からわざわざ参加してくれる生徒さんもいます。現時点で、目に見えて女子学生が増えているわけではありませんが、理工系分野の女性活躍が今後の大学教育にも重要だと思います。今後も継続的にプログラムを実施し、本学の理工学部、また地元の生徒さんに理工系分野の楽しさを広く伝えられたらと考えています。



名古屋工業大学 加野さん：本学では、国立大学として、女性が活躍できる場を広げていくことが使命だと考えています。中部圏は製造業が盛んな地域です。製造業の女性参画が進まないと、他の地域に活躍の場を求めて地域から女性が流出してしまうと考えています。これを防ぐために、リコチャレ関連プログラムを推進することで、若い世代に理工系に興味を持つてもらうことが重要だと考えています。



リコチャレ関連プログラムを実施・運営していくための工夫・ヒント

—イベントの実施を計画したり、運営したりしたことがない担当者にとっては、リコチャレ関連プログラムに取り組むに当たり、どのように取り組んだらよいか分からない方もいるかと思います。「理工チャレンジ プログラム（モデル）」は、担当者の皆様の円滑なイベント計画の策定、運営に資することを目的に作成したのですが、各モデルケース校の皆様にお話を伺うと、リコチャレ関連プログラムを実施するにあたっては、授業や講座の一環としてあまり気負わずに実施されている様子が伺えました。そこで伺いたいのですが、皆様は、リコチャレ関連プログラムの実施・運営をどのように捉えていますでしょうか。

帝京大学 平澤さん：本学では、リコチャレ関連プログラム以外にもサイエンスキャンプなど様々な理科イベントを実施しています。このノウハウを活用して実施・運営しています。我々が実施するリコチャレ関連プログラムは、オープンキャンパス時に実施する大学紹介ではなく、女子生徒本人が進路選択する際に助けとなるようなものとなることを重視しています。ひと口に理工学といっても様々な分野があります。どのような研究を行うかを知つてもらい、理工系に進みたい女子生徒の後押しになることを目指しています。

名古屋工業大学 加野さん：本学のリコチャレ関連プログラムは、女子生徒に工学を知つてもらう、その入り口として、“工学的な遊び”をするイベントを実施・運営する、ということを意識しています。

北九州市立大学 長さん：本学が実施している出張講義では、講義を担当する教員が地域の中学校に出向いて講義を実施します。地域貢献の一環として開始した取組が徐々に規模が大きくなり、現在は、独立したイベントとして実施しています。



—リコチャレ関連プログラムを実施するにあたっては、集客や参加申込受付、理科実験等を担当いただく教員、ロールモデルなどの外部講師の調整、または自治体との連携など、下地づくりが重要になるかと思います。こういった下地作りの観点から苦労した点やポイントなど伺えますでしょうか。

名古屋工業大学 加野さん：本学が実施している「モノづくりチャレンジ」においても初回のイベントでは、定員が埋まらなかったという苦い思い出があります。主に図書館でチラシ配布をして広報活動をしていましたが、当時はコロナ禍で人出もなく、あまり広報効果を得られませんでした。2回目の実施の際は大学のホームページにイベント告知を掲載したところ、短期間に定員まで参加申込をいただけました。大学ホームページは、時期によりアクセス数が異なります。広報活動のために、時期ごとのアクセス数とその目的を把握してイベントの周知を行うと良いと思います。また、参加者確保の点からは、自治体の後援をいただくことが重要だと思います。本学では、名古屋市教育委員会に後援していただいており、同市のSNSアカウントからイベント情報の発信をさせていただいている。

北九州市立大学 長さん：現在は、相応の規模で実施していますが、最初はスモールスタートでした。全学的に認めてもらえるような活動になるまで5年くらいかかりました。出来ることから始めて、徐々に大きくしていくのが良いかと思います。また、外部連携を依頼する際は、電話やメールではなく、直接会って説明をするように心がけています。

名古屋工業大学 加野さん：私も活動初期は、地域の高校に足を運んでご説明していました。チラシを持っていき、イベントの告知、また名古屋工業大学として女子生徒を歓迎することをお伝えしていました。そういう説明を続けて、地域での本学のリコチャレ関連プログラムの認知が進んだ実感があります。

帝京大学 平澤さん：本学でも周知活動に苦労した経験があります。中高生は、部活動や補講で忙しいので、学校行事や試験日程などをよく踏まえて実施日程を検討することが重要です。また、「講演会」という形式では集客しづらいのですが、理科実験を含むようなイベントだと集客できることがあります。一方、終了後アンケートでは、「講演会」の内容の満足度が高かったです。こうした経緯を踏まえて、本学では、サイエンスキャンプとして理科実験と講演会をセットにして実施し、中高生に興味を持つてもらえるようなイベントにすることを心掛けています。



c) リコチャレ関連プログラムに対する想い

—リコチャレ関連プログラムを推進には、担当者にも相応のご苦労があるかと思います。一方で、それを実現していく“想い”があるのではないかと思うのですが、皆様にとって、リコチャレ関連プログラムを推進していくエネルギー源ややりがいはどういったところにあるのでしょうか。

北九州市立大学 長さん：理工系の進路に進むのは、その進路に進めば楽しいと感じるからだと思います。このため、出張講義を担当していただく教員には、「子供たちが“楽しい”と思える内容で講義を実施してほしい」とお願いします。「子供たちに理工系を楽しいと感じてもらうこと」が理工系の進路を選択するための大前提だと思っています。

帝京大学 平澤さん：リコチャレ関連プログラムを通して、理工系分野で様々なことを学ぶことができる事を知ってもらいたいです。地方にありがちですが、栃木県の生徒さんの多くは卒業後、大学や専門学校など都会に出て行ってしまいます。研究者や技術者となって幅広く世の中を見た後に、ものづくり県である地元の栃木に帰ってきて地方を盛り上げてほしい。そういう想いで活動しています。

名古屋工業大学 加野さん：この座談会のメンバーの中では、文系出身でリコチャレ関連プログラムに関わっているのは私だけだと思います。社会学の視点で工学を見た時、やはり技術革新が社会に与えるインパクトの大きさは計りしきれません。その担い手が、ひとつの性に偏っている状況を変えたいという想いで活動しています。



別添資料 1：企画書 実例

理工チャレンジ プログラム 企画案



～女子中高生・女子大学生の理工系分野への選択～

実施目的 Why

【理工チャレンジの推進】

- 政府が推進している次世代を担う女性科学技術者人材の育成に関する取組である“リコチャレ”を推進する。当該施策については、内閣府男女共同参画局から、全国の大学・企業等に対して、「理工チャレンジプログラム」の実施要請があり、我が国全体として、同施策の推進に尽力することが求められている。
- 【大学PR活動】**
- 本学では、工学部において女子学生の割合が低い状況にあり、今後の持続可能なイノベーション創出環境に資するため、女子学生割合の増加が急務である。理工チャレンジプログラムの実施は、主に地域の女子高校生を対象に実施するものであり、本学のPRにも効果がある。

対象者 Whom

【地域の高校生】

- 本学が本取組を実施する直接的な対象者は地域の高校生（1～3年）とする（理工チャレンジは女子を対象とすることになっているが、本学PRに資するために男女ともに対象とする）。

【保護者】

- 高校生を対象にするため、その保護者が同行することが想定される。大学PR、また理工系分野に対するみティレオタイプなイメージの払拭は保護者に対して必要な取組であるため、保護者も対象者とする。

実施内容 What

【ロールモデルによる講演】

- 理工系に女子学生が増えない要因として、理工系分野に対するスリーティオタイプなイメージがあり、この払拭のため、ロールモデルの提示が有効とされている（理工系に進んだ女性にも様々なケースがあることを示すことで固定観念を払拭する）。

【理科実験教室】

- リコチャレを推進している内閣府が実施した調査によると、女性の理工学部志望者は、幼少期に理系的経験（理工系イベントへの参加や博物館体験など）をしている割合が高い。

実施日程 When

【当日プログラム】 13：30～

-主旨説明/大学紹介（工学部学部長等） 5分程度

- リコチャレの主旨や本学の概要（魅力）を紹介。特に工学の“楽しさ”を本学の視点から紹介する。
- 【ロールモデル講演（STEM Girls Ambassadors）45分程度】**
- 内閣府「STEM Girls Ambassadors」の派遣を受けることを想定。但し、学校PRの観点から、本学OGのロールモデルに登壇いただくことも検討する。
- 【理科実験教室（本学工学部 教員）60分程度】**
- 本学工学部教員による理科実験教室を行う。理工系になぜ“好奇心”が重要なのか、好奇心を持つ、疑問を持つ、仮説を立てる、やってみる、など順序を追って理科実験を進める。

実施場所 Where

- 本イベントは本学PRという目的があるため、実施場所は本学 工学部がある○○キャンパスにて実施する。
- 本学のキャンパス内を見て歩いて頂き、キャラクタースライフを体験して頂く。

別添資料 2：運営計画書 実例

理工チャレンジプログラム 運営マニュアル

～女子中高生・女子大学生の理工系分野への選択～

表紙



リコチャレ!! 好奇心ラボ

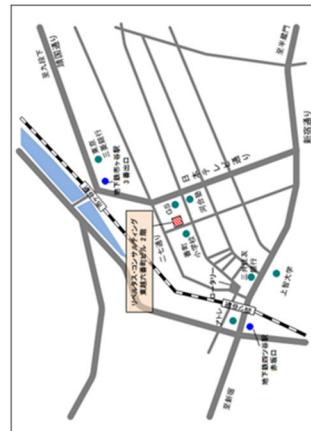
運営マニュアル

日時: 2025年〇〇月〇〇日
会場: 〇〇大学〇〇キャンパス〇〇

開催概要

リコチャレ!! 好奇心ラボ

- タイトル
リコチャレ!! 好奇心ラボ
- 主催者 : 「Who」を記載
- 日時 : 「When」を記載
- 会場 : 「Where」を記載
- 開催趣旨 : 「Why」を記載
- 参加者 : 「Whom」を記載
- 開催内容 : 「What/How」を記載



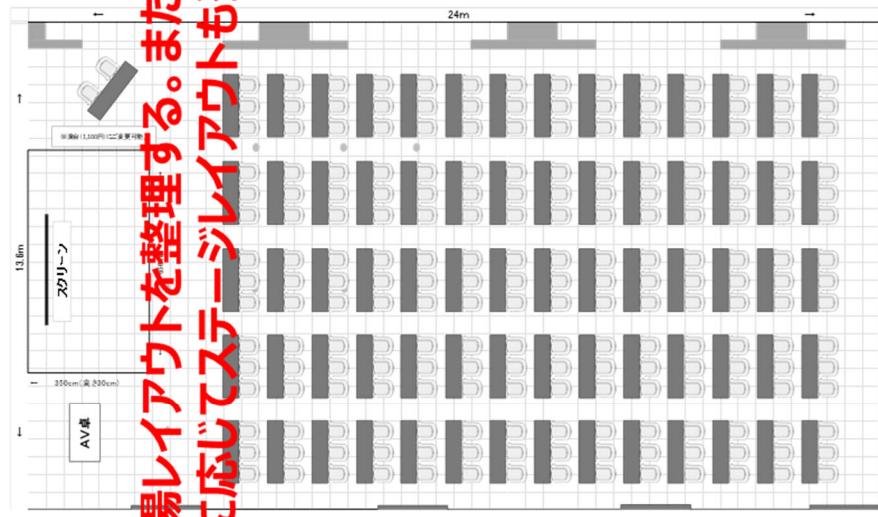
○会場情報

理工チャレンジプログラム 運営マニュアル



～女子中高生・女子大学生の理工系分野への選択～

会場レイアウト



本番プログラム/スケジュール

時間	内容
10:00～	スタッフ集合
10:15～10:30	運営スタッフ 全体ミーティング
10:30～11:00	各自 持ち場の準備 設営
11:00～12:00	リハーサル
12:00～13:00	昼食休憩
13:00～13:20	登壇者来場/進行打合せ
13:30～13:40	開会/主催者挨拶
13:40～14:30	ロールモデル 講演
14:30～14:45	休憩
14:45～15:30	理科実験教室
15:30～15:45	学校紹介
15:45～16:00	閉会



～女子中高生・女子大学生の理工系分野への選択～

理工チャレンジプログラム 運営マニュアル

受付・誘導・プログラム内容

13:00-13:30

担当者:○○、○○

受付

実施する内容について記載
(運営内容について説明)

運営情報を見整理する必要
があるプログラム場面ごと
に適宜、複数作成する

必要に応じて、実施する内容に関連する場
所のレイアウトや設置するものなどを整理



～女子中高生・女子大学生の理工系分野への選択～

理工チャレンジプログラム 運営マニュアル

スタッフ体制図

会場管理 ●●名前 ●●

全体説話 ●●名前 ●●

進行管理 ●●名前 ●●

●●担当 ●●名前 ●●

●●担当 ●●名前 ●●

●●担当 ●●名前 ●●

15:45～16:00

本番プログラム/スケジュール

時間	全体	受付	進行	誘導	…
10:00～					
10:15～10:30					
10:30～11:00					
11:00～12:00					
12:00～13:00					
13:00～13:20					
13:30～13:40					
13:40～14:30					
14:30～14:45					
14:45～15:30					
15:30～15:45					
15:45～16:00					

**担当割りごとに
時間ごとの実施
内容を整理**
